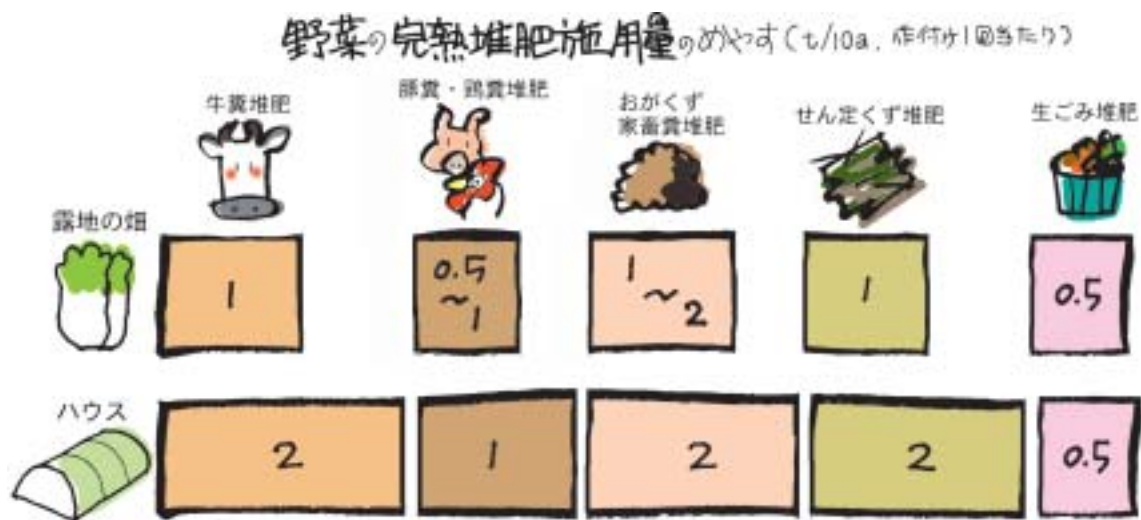




からしみ出なくなるまで放置します。土を握ると固まりができ、その固まりにちょっと触れると崩れる状態がほどよい三相分布です。こってりとかたまってくずれないのは固相・液相が多く気相が少ない土、固まりができないのは固相・気相が多く液相が少ない土です。どちらも良質堆肥の施用を続けて、目標に近づけていきます。

良質堆肥を入れ続けると、物理性が改善されると同時に、土壤微生物・小動物の活動が活発になってきます(生物性改善効果)。ミミズや土ダニなどが目につくようになるので、お握り判定もしながら、楽しみに見守っていきましょう。

● 標準的な施用量、プランター当たりの換算法

堆肥の種類と作物の種類によって、標準的な施用量があるので、上の図にその例を示します。物理性改善効果の高い牛糞堆肥、おがくず・家畜糞堆肥、せん定くず堆肥は多めに、肥料効果が主の豚糞堆肥、鶏糞堆肥、生ごみ堆肥は少なめになっています。また、ハウス栽培は野菜に適した水や温度などの条件を与え収穫が長期にわたり収穫量も多いので、堆肥施用量を多めにします。

堆肥施用量は、農業生産の現場ではふつう10a(1,000m²)当たりで示されます。家庭園芸などでは、これを下の図のように、1m²当たりやプランター当たりに換算して施します。

